



NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2015
4月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～これからの一関の観光～
- 4 | 団体紹介～岩ノ下獅子舞保存会～(東山)
- 5 | 地域紹介～室根町津谷川 第19区自治会～(室根)
- 6 | 企業紹介～磐乃井酒造株式会社～(花泉)
- 7 | センターの〇〇～いちのせき市民活動センター意見交換会～

フタコト×ミコト

第11回 二言三言 18/124,052

これからの一関の観光

対談者 (一般社団法人) 一関観光協会 会長 岩井 確司 さん
聞き手 いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹

世間話のできるまちでおもてなしへ

【小野寺】岩井さんは、一関観光協会のほか、全国地ビールフェスティバル実行委員会、一関・平泉バルーンフェスティバル実行委員会の会長、そして厳美渓レストハウス、いつくしだんごの館のオーナーとして日々忙しい中ですが時間を取っていただきました。

さて、一関観光協会の視点から、現在の一関の観光と地域の関係はどう捉えていますか？



【岩井】一関市は12万5千の人口を抱え、温泉地・景勝地や飲食店など観光の資源はたくさんそろっています。それを考えると、もっといろいろな分野の方が観光協会の会員として入って頂いても良いのかと思います。市民全体で一関市を盛り上げる感じです。私は現場の人間で、お客さんに団子を提供しています。観光客が来て「どこか団子を食べる所はありませんか」と聞かれた時に、まちじゅうの方が「あそこはこんな団子がありますよ」と教えてくれる。それがおもてなしにつながると思います。また、「どちらからいらっしゃいましたか」と声をかけ、「倉敷からです」「そこは私も何年か前に行ってきました」と会話ができる。

そんな観光地になっていければと思っています。

【小野寺】先日ある会合で、副市長さんが「世間話のできるまちを目指したい」と言っていました。まちなかですれ違った方と「団子はどこがいいですか」「私にはあそこがお勧めです」と話ができる人が一人でも増えるのはいいですね。

【岩井】市内にもガイドの会があり、専門的に案内をされていますが、専門家でない一市民がちょっとした案内ができるまちが必要だろうと思います。都会の雑踏の中で人が無言で通り過ぎる時間でなく、田舎に来ればこんなゆったりと過ごせる時間もあるんだなあと感じてもらえる。時間の流れの違いを感じ取れるまちでありたいと思います。

【小野寺】一関に来て時間の流れ、季節の移り変わりの違いを楽しんでもらえる、そんなまちになってほしいですね。

【岩井】海外に行きましたが、ハワイで過ごすまったくした感覚、パリで雲の流れを見て何百年も前の絵と同じだと感動する気持ちになります。それとおなじように。さらに一住民がおもてなしできるようにすれば黙っていてもまちなかのゴミを拾ってくれるまちになるのではないのでしょうか。

能動的な旅行に対応できる体制づくりを

【小野寺】MICE（マイス）という考え方があるとおっしゃっていますが。

【岩井】最近の観光業界の動きはMICE抜きに語れません。Mは各種の会議（Meeting）、Iは研修や招待報奨などの旅行（Incentive Travel）、Cは国際会議（Convention）、Eは展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字をとってあり、それら

が結びつくことで多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントです。

【小野寺】観光業者だけが頑張るのではなく、観光の現場の周辺にいる人たち、自治体、企業などが関わってやるのが大切ですね。今進めている地域づくりと同じ構図だと思います。区長さんや一部の人だけが頑張るのではなく、取り巻く様々な人や組織と一緒に取り組むことが必要ですね。これまでの物見遊山から着地型の転換が背景にありますよね。

【岩井】着地型というより目的を求める。私の中では受動的なものではなく能動的なものと考えています。今回の旅行では何を求めるか、Mはミーティングだが会議プラス何か。会議で一関に来たら〇〇しようとか食べようとか、今日はたまたまバルーンフェスティバルの日だから見に行こうとか。そういう付加価値というかプラスの部分がある旅行を考える。観光協会は旅行業の免許を取っているのです、将来的にはそこまで持っていきたいと考えています。

【小野寺】現在、私たちも平泉観光客を広域に広げることやリピーター増を目的とした広域観光推進ワークショップに3年関わり、新たな視点で検討しています。観光協会が旅行業を活かして取り組むことに期待しています。

【岩井】例えば、地ビールフェスタに来た方々を温泉・平泉・沿岸に運ぶアイデアもあります。そのため宿泊先もこちらで確保する。旅行目的だけでなくそれに合わせていろんなことをすれば旅行の質が高まるので、来てよかったなと思ってもらえるかと思えます。

【小野寺】今は付加価値を求める時代なので、観光でただ物を見るだけでなく、物をついでに見る、何を食べるか、体験するかが大切ですね。

【岩井】今年の冬にはしご酒大会がありました。一過性ではなく定番でやることで地域貢献度が高まるだろうと考えています。

これからの一関の観光

【岩井】今年の一関・平泉バルーンフェスティバル2015は、国内最高峰の熱気球の大会・ホンダグランプリ3戦目に組み込まれることになりました。昨年までは約15機でしたが、今年は25機飛ぶ予定です。ホンダグランプリは一番少ない大会でも6万人の動員数があります。一関では昨年は2日間開催で天気も悪

かったため、2万人の人出でした。今回は3日間の大会なので人出はもっと増えるだろうと思っています。平泉観光のついでにお越しになる方もいるだろうし、イベントの目的の大きな柱に震災復興もあるので沿岸地区に足を延ばしてもらえる機会を考えていかなければと思います。



【小野寺】バルーンフェスティバルは切り口としては大きいですが、市民レベルの動きもありますね。千厩のひな祭りや大原の水かけ祭りなどを盛り上げようという取り組み。

【岩井】地域資源を活かすために旅行業を活かして内部的に、市内の伝統行事やイベントにも、食事や泊まりや体験なども加えてこの地域を楽しんで頂けることを検討しています。

【小野寺】一関観光協会さんが果たす役割は大きいものだと思います。これからの抱負をお聞かせください。

【岩井】全国に観光協会はありますが、最近の潮流としては自治体などの補助金を当て込むのではなく、自前でいろいろな事業を行い、かつ独自の色彩を発信していくことになっています。新たな発想が出来る職員が増えれば組織内も違ってくるでしょう。職員のモチベーションを上げていきたいと思っています。また、一関市は観光地としての条件はそろっています。しかし道具はあるが横のつながりが弱いと光輝かないので、もっと横の連携を強化していきたいと思っています。

私のこだわりですが、日本各地に地酒や地ビールがあります。地産地消や地産外商が叫ばれていますが、地方の「地」ですが、自分の「自」の「自産」があっても良いのではないかと思います。こだわりを持って多くの光り輝くものを発信していきたいと思っています。

基本情報

【一般社団法人一関観光協会】

住所 〒021-0867 一関市駅前1番地

TEL&FAX 0191-23-0066

岩ノ下獅子舞保存会

団体 紹介



会長 鈴木重孝さん(右)
事務局 千葉健司さん(左)

～基本情報～

- ◆会 長：鈴木重孝さん
- ◆事務局：千葉健司さん
- ◆連絡先：〒029-0303

一関市東山町松川字岩ノ下
(鈴木さんご自宅)

若者参加を願いながら、今後も活動を継承していきたい

地域の伝統行事

JR大船渡線岩ノ下駅周辺に位置する岩ノ下集落の岩ノ下獅子舞は、毎年旧暦正月12日(現在は新正月3日)に、東山町松川の岩ノ下集落の家内繁栄と無病息災を祈願し、集落各戸を巡行することが正月の恒例行事です。地域の言い伝えによると、「元和元年(1615年)大阪夏の陣出陣の際、主従無事奏功、凱旋帰還を祈願し、京都より三十三体の観世音菩薩を勧請した折、その菩薩の先導、守り役として獅子が侍づくことになったのが始まりと言われる」とされています。会長(86歳)の幼い頃は、戦争の最中で一度途絶えてしまうこともありましたが、遠祖代々から現代まで伝わり続けてきました。

この獅子舞は、獅子頭、胴中、尻尾の3人立ちで踊り、他に笛吹き、太鼓(大太鼓、小太鼓)があります。現在は、事務局の千葉さんが子ども達に獅子舞を指導し、伝統を継承しています。

家々を巡り、一年の幸福を願う

今年の獅子舞も、岩ノ下集落にある44軒の家々を回りました。獅子舞が来ると玄関先に家族全員が並びお辞儀をし、獅子の口の中へ自分達の頭を差し出し、噛んでもらうことで、悪霊を払います。そしてお菓子やお米、ご祝儀を頂き、お酒をふるまってもらいます。厄年の方がいないお家は1回、厄年がいる方のお家は2回まわるので、行事は1日がかかります。「やっているうちにだんだん腕が上がらなくなり、手が動かなくなるため交代でやらないと大変だ」と千葉さんは語ります。

現在、獅子舞を舞える会員が2～3名で、「若者の参加を期待しているが、仕事もあり普段の練習に参加す

ることも難しいのだろう」と語り、さらに、集落にいる子どもも小学生が2人となってしまい、継承していくことに不安を感じているそうです。

次の世代に受け継ぐ

平成26年3月に松川小学校が東山小学校と合併しました。子どもが多かった頃は、松川公民館で開催される小正月行事として、小学校高学年の児童と大人と一緒に獅子舞を披露し、地域の方々から大変喜ばれていたそうです。

千葉さんは持参した2008年の写真を見せて頂きながら、「この頃は良かったね。子ども達が大勢いてね。ほらここに会長のお孫さんもいるよ」と語りながら、当時を懐かしみます。岩ノ下獅子舞が東山町の文化財に登録され、観光協会から補助金を受ける事ができるようになり、年に数回行われる芸能文化祭で獅子舞を披露しているそうです。6月には、おさなぶりの披露も控えています。今後もこの活動を受け継いでくれる担い手を育て、継承に力を注いでいきます。



今年のお正月



2008年

松川公民館玄関先で撮影

地域 紹介



自治会館と三浦会長

～基本情報～

- ◆自治会長：三浦 正さん（2期3年目）
- ◆宮城県との県境に近い34世帯（約140人）の小さな自治会ですが、地域資源を活かした取り組みにより、地域内外との様々な交流の機会を生み出しています。

地域資源を活かし、人にも自然にもやさしい地域づくり

川がつなぐ広域世代間交流

「前の自治会長は40代の頃から20年も会長職をやった。その頃にできたものを引き継いでやってるだけ」そう笑う現自治会長の三浦さんは2期3年目。この地区に生まれ、この地区の営みを見守ってきた一人です。

室根第19区自治会は、宮城県気仙沼市本吉町との境界に近い山間部にある小さな集落です。気仙沼市本吉町小泉地区へと流れる津谷川の中流域で、集落の中心を流れるこの川を起点として様々な取り組みを行っています。

自治会のメインイベントは、平成4年から続く本吉町の小泉川鮭増殖組合との交流事業。川の清流化につなげようと、毎年11月に地元の子供達と親鮭を放流しますが、親鮭は同組合が「上流あつての下流」と無償で提供してくれています。このイベントは農家組合が行う収穫祭ともタイアップし、鮭の放流だけに留まらず、3世代間交流にもつながる一大イベントとなっています。また、川の積極的利用を目指し、いかだづくりにも10年以上取り組んでいます。夏は自治会で制作したいかだを川に浮かべ、子供達が自由に遊べるようにしています。地元の子供達はもちろんのこと、室根町が交流を行っている埼玉県吉川市の子供達がホームステイに来た時の楽しみにもなっているそうです。

工夫が光る持続可能な仕組みづくり

津谷川地区では津谷川小学校の閉校に伴い、子供会の再編が行われました。津谷川地区には5つの自治会があり、当時はそれぞれの自治会に子供会がありましたが、閉校後は2つの会に再編（16区～17区、18区～20区）。そのため、自治会としての子供会へのサポートが難しくなってしまいましたが、19区自治会では

川の水生物調査を子供会に委託することで、活動費をサポートしています。子供会としても、夏休みの行事の中に組み込み、楽しみながら川の保全活動を行っています。

鮭の放流事業の際にも、自治会内の子供達だけではなく、子供会に声をかけます。そうすることで、自然と自治会を越えた交流へとつながっていくのです。

自治会運営の工夫は自治会費にも反映されています。一世帯当たりの自治会費は2500円で、不足分は廃品回収や「材料の持ち寄り制度」で補っています。鮭の放流イベントの際には豚汁を作りますが、自治会報で事前に必要な材料を告知し、各家から持って来られるものを持ち寄ってもらうそうです。「少しでも住民の負担を減らすためにね」と、小さな山間集落ならではの工夫ですが、お互いの信頼関係の強さが垣間見えます。

地域の声を最優先

「そろそろ復活させようかと思ってるんだ」と、三浦会長は現在休止中のお盆行事復活への取り組みに前向きな姿勢を見せます。数年前、地区内で初盆が重なったことで中止にして以来、現在まで休止状態にあるお盆行事。盆踊りや花火のほか、飲食コーナーを設置し、帰省者との交流の場になっていたそうで、地区の中から「交流の機会が減って寂しい」という声が出てきているそうです。地区内の声に耳を傾け、柔軟で自然な仕組みで地域づくりに取り組む室根19区自治会。お盆行事の復活によってさらなる飛躍が期待できそうです。



夏の楽しみ 手づくりいかだ

磐乃井酒造株式会社

企業 紹介



代表取締役
阿部 徳彦さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：阿部 徳彦 さん
- ◆連絡先：〒029-3205
一関市花泉町涌津字館 72 番
- ◆電話：0191-82-2100
- ◆FAX：0191-82-2101
- ◆URL：<http://www.iwanoi.co.jp>

住民の熱意で生まれた地域の酒造会社

激動の時代を駆け抜けて

一関市花泉町は、旧町名からも伝わるように「泉」が多数存在し、花々や自然に囲まれた地域。特徴的な温暖な気候は上質な米を育み、岩手県内でも有名な米どころとなっており「餅文化」も栄えています。その土地の郷土料理とともに、人と人を結び付けてきた地酒「磐乃井」は地域住民の熱意によって生まれ守られ、激動の時代を駆け抜けてきました。

時代は大正、第一次世界大戦の影響もあり経済界は好景気に沸き、地方農村においても米価や繭価が高騰するなど地方経済も好況の時でした。そのころ、地域周辺では清酒醸造業者がなく、粗悪な密造酒の横行が多発。「密造を防止し地域の乱れを改善しよう」と、地域住民有志らが立ち上がり、大正6年に株主175名で公共性を帯びた地場企業として磐乃井酒造株式会社を立ち上げたのです。

戦争が激化した昭和18年からは、両磐地区の企業合同により「両磐酒造株式会社」となり醸造を休止していましたが、昭和28年から再び地元米を使用した醸造を開始し、地域の農家に活気を呼び戻しました。

地域住民の雇用の場

「私の本業は稲作農家なんですよ」そう語るのは、同社代表取締役の阿部徳彦さん。平成5年の冬から蔵人として酒造りに携わり、取締役を経て平成18年から13代目代表に就任しました。

「この地域の地場産業と言えば、米作り、農業ですが、先代方の熱意ある地場企業設立のおかげで、私たち農家が農閑期の働き先として輝ける場があるのです」と語り、「起業家としての華やかリスマ性はありません。地域の支えと先代方の“自分たちの酒を、自分たちの

手で造っていく”という心意気を大切に受け継ぎ、従業員一丸となって蔵を守っていきます」と続けます。

地域の課題解決型から立ち上がった、酒造会社。地域に根ざした酒造りを目指す同社では、原料米もできるだけ地元産を使うなど素材にこだわりを持ち、地域との密度を深めながら昔と変わらぬ姿で、地酒造りに努めています。

全国へ地域発信

「若い人たちの力、視点っていうのは本当に素晴らしい。発想が違うよね」そう語る阿部さん。現在、力を入れているのは“地域丸ごと発信”とのこと。「伝統を受け継ぐというのはもちろんのこと、さらに時代の変化に対応できる新しい取り組みも、我々の努めと思っています」と続けます。

一昔前は、冠婚葬祭時等の流通で商品のそのほとんどが地元で消費されてきました。しかし、2年前にUターン就職した若手従業員の発想から、女性が飲みやすい商品や地元企業とのコラボレーション商品開発など新しい風が吹き始めます。

まもなく迎える創業100周年を前に「若手従業員や地域とともに守るべき伝統を継承しつつ、県内や地元素材の魅力を外へ発信していきたい」と意気込みを語っていただきました。



地元のお米で磐乃井ならではの酒造り。今年も味わい豊かな新酒が出来上がりました。



センターの〇〇!

—いちのせき市民活動センター意見交換会—

当センターでは、一年間行った業務と成果、課題を市民活動団体や企業の方に報告し、評価・意見をいただく「意見交換会（平成 26 年度事業外部評価委員会）」を 3 月 13 日に開催しました。一年間の成果を地域の方に見てもらえる貴重な機会とあり、会議設計から意見交換会前日まで 2 か月半の時間をかけて準備してきました。今回は当日の意見交換会の内容を皆様にお伝えしたいと思います。

1 地域の団体・企業さんにご協力依頼



ご案内

今回ご協力いただきましたのは、協働体組織（3 地域）、NPO 法人（2 団体）、地域活動団体（2 団体）、企業（1 企業）、一関市社会福祉協議会、一関市役所協働推進課の各代表者 1 名、計 10 名です。

2 意見交換の様子



会議 当日

事前配布した報告書に基づき、パワーポイントを使用し、平成 26 年度のいちのせき市民活動センターの実績を報告。併せて昨年の評価委員会でご意見いただいた内容の取り組みを説明しました。

意見交換会の内容

○協働体関係

- ・地域づくり計画や、協働体の組織づくりにおいて市民活動センターの役割は大きく感じたが、一部の地域組織にとっては、その役割がはっきり認識されず「やらされている」という部分もあったのではないかと。
- ・NPO としてまちづくりに参画したいので、地域の構成員としての企業や NPO との橋渡しの役割も期待したい。
- ・着々と市内で協働体が設立しているという事が一番評価される事ではないかと思う。
- ・協働を進める自分の役割と向き合うにあたり、センタースタッフのサポートに助けられた。
- ・住民の住民による住民の為のまちづくりという本来の意識醸成の役割も市民活動センターは担ってほしい。

○センター事業関係

- ・市民活動センターの講座等を受講し、普段の中で役に立っていると感じる。
- ・講座やワークショップフォーラムへの参加を通じていろんな人との出会いに繋がったことに感謝している。
- ・このスタッフの数でこれだけの事業をやっているのはすごいと思う。

○相談対応

- ・助成金情報や相談に関して素早く対応してもらっている。
- ・企業として出来るかかわり方があれば教えてほしいし、出来る限り協力したい。
- ・各種団体等の活動状況を把握するうえで、毎月の定期訪問は意味があることだと思う。
- ・次のサポートに活かしていける相談シートなどセンターの中での情報共有が大事だと思う。

○その他

- ・情報発信は SNS をうまく使っていると思う。
- ・こんなにたくさん活動しているんだなというのが正直な第一印象。
- ・行事等への参加などの取り組みを通じて企業も地域に関わっているという印象がある。

○意見交換を終えてセンター長から

- ・平成 27 年度、いちのせき市民活動センターは 10 周年を迎えます。次の 10 年後もセンターが存在するように、本日頂いた意見を次年度の取り組みに活かし、頑張っていきたい。

おしらせ

一関 第42回一関市民マラソン大会

距離は3kmの部、5kmの部、10kmの部と3種類あり、小学生3年生からエントリー可能です。桜並木を通るゆるやかなコース！気温も暖かくなり、風景を楽しみながら走るには最高の季節です。みなさんの参加をお待ちしています！！

【日時】 平成27年4月26日(日) 8時30分受付開始
【場所】 一関市総合体育館前広場集合
【料金】 無料
【問合/申込】 一関市体育協会(4月19日締切)
【電話】 0191-31-3111

大東 アストロ・ロマン大東

アストロ・ロマン大東は大自然を活かした森林レクリエーション施設です。冬期間休業していましたが、4月1日(水)より今期の営業開始いたします。エリア内には、7つのMTBトレールやフィールドアスレチックコース、全長101メートルのローラー滑り台など遊び施設が充実しています。

【期間】 平成27年4月1日(水)~11月30日(月) 9時00分~17時00分
【場所】 アストロ・ロマン大東
【料金】 入場料無料(各種料金が必要なイベントもあります)
【問合】 アストロ・ロマン大東(火曜定休)
【電話】 0191-72-2860

東山 お小夜の1本桜ライトアップ

お小夜の伝説が今年もげいびの里に春を運びます。川面に映る夜桜をお楽しみください。

ライトアップは開花時期に合わせて行われます。多くの方のご来場をお待ちしております。

【期間】 1本桜の開花時期
【場所】 狛鼻溪乗船場
【料金】 無料
【問合】 (有)げいび観光センター
【電話】 0191-47-2341

一関 一関春まつり

「まちかど音楽祭」をテーマに、市内の小中学生による合唱や吹奏楽の発表や伝統芸能の鶏舞が披露されます。そのほかFMあすも3周年記念ステージや、「子どもの広場」「花と緑の広場」、ケータリングカー大集合などが楽しめる春のイベントです。

【日時】 平成27年4月29日(水) 10時00分~16時00分
【場所】 大町歩行者天国
【料金】 無料
【問合】 一関市商業観光課
【電話】 0191-21-8413

花泉 おはなし会

花泉図書館では、ボランティアサークル、図書館職員による絵本読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどが楽しめるおはなし会を開催します。毎月定期的に開催していますので、お気軽にご参加ください。

【日時】 平成27年4月12日(日)、21日(土)、26日(日)
 ※第2・4日曜日 11時00分~11時30分
 第3土曜日 14時00分~14時30分
【場所】 花泉図書館
【料金】 無料
【問合】 花泉図書館
【電話】 0191-82-4939

川崎 第23回北上川クリーン大作戦!

北上川クリーン大作戦!ただいま参加者募集中です。NPO法人北上川サポート協会は毎年、春と秋の2回北上川のゴミ拾い活動を行っています。今年は4月26日日曜日が春のゴミ拾いの日です。

【日時】 平成27年4月26日(日) 8時30分~12時00分
【場所】 北上川(横石鉄橋~川崎インクライン)
【料金】 無料
【問合】 川崎防災センター
【電話】 0191-36-5666

室根 室根山山開き

室根山山開きは岩手県内で一番早い山開きで多くの登山者が参加します。登山愛好家や地元の自然愛護少年団などさまざまで、テープカットの後、一斉に登山が行われます。途中、8合目の室根神社で安全祈願祭をとりおこない、標高895.4mの山頂で奥羽山脈と太平洋を一望できる大パノラマの中で登山を記念し万歳三唱を行います。

【日時】 平成27年4月19日(日)
【場所】 一関市室根町折壁字室根山
【料金】 無料
【問合】 一関市室根支所 産業経済課
【電話】 0191-64-3806

千厩 せんまや夜市

今年もせんまや夜市が始まります。18時の花火を合図に、本町と新町の商店街が歩行者天国になります。楽しいお買い物とふれあいの場、多彩なイベントを存分にお楽しみ下さい。

【期間】 平成27年4月11日(土) 18時00分~21時00分(以降、10月まで毎月第2土曜日開催)
【場所】 千厩町本町・新町商店街
【問合】 千厩夜市実行委員会
 (一関商工会議所 千厩支所内)
【電話】 0191-53-2735

藤沢 古民家マルシェ

古民家の雰囲気や部材をそのままにリフォームされた農家民宿でマルシェを開きます。

豊かな自然、心のこもった手作りの品々、築150年の歴史。ゆっくり流れる時間をどうぞお楽しみ下さい。

【期間】 平成27年5月2日(土)~3日(日) 10時00分~16時00分
【場所】 農家民宿 ほろはの家
【料金】 無料
【問合】 菊千
【電話】 090-5185-8314(菊地)

今月の表紙



コブシの蕾が膨らみ始めた花泉町の花と泉の公園内の「花拓りの館」。コブシは早春に他の木々に先駆けて白い花を梢いっぱい咲かせます。別名「田打ち桜」とも呼ばれます。

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 「NPO」ってそもそもどういう意味なの？

A NPOとは、「NON(しない) PROFIT(利益追求) ORGANIZATION(組織)」の頭文字をとった呼び名で、直訳して利益を追求しない組織=非営利組織という意味です。NPO法人は、地域にあるNPO(=市民活動団体)が、自分たちの会員だけにサービスするという枠(共益)から脱し、サービスを求めるすべての人に目を向けた活動(公益)ができるように、平成10年12月に施工された特定非営利活動促進法(=NPO法)に基づいて設立された法人です。

